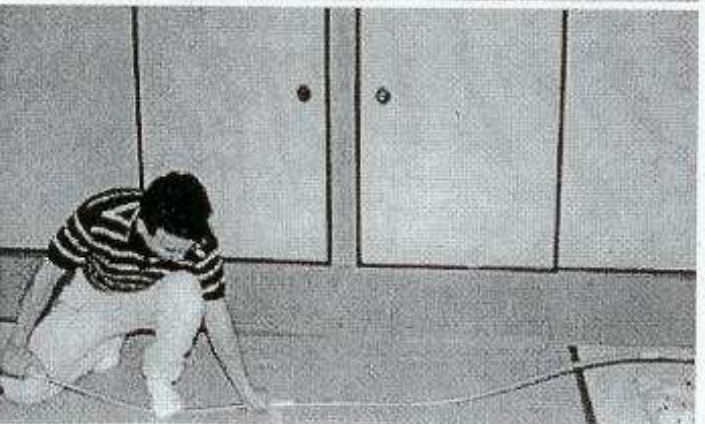


育てる張り方



写真1から3・の様に押す。押す時の力加減は右手8左手2位の感覚で左手は押す力よりも左右にふらつかないような力の配分をする。(弓が安定し、熟練したらこの限りではなく、左手手動で簡単に張れます。)イリキの強い弓は、その度合いに応じて角見の方向に捻りながら押し、デキの弓は、角見と反対方向に捻りながら押す。また理想的な弦掛りの弓の場合にも幾分角見の反対方向に捻りながら押すのが正しいです。

二、写真3の様に弦が掛かる所まで押したら、右手はその儘で、左手は握りから離して、握りより5センチから20センチ(弓の個性に応じて)下方に持ち替え、写真4の様に弦を掛ける。



三、写真5・弦を掛けたら右手は下成りを持ち、左手は握りを持って弦の掛かり具合を確かめながら力を抜いて弓形を整える。もし弓がふらつく様などときには写真6の様に左手を最大限上方にずらし、立ち上がりつつ写真7の如く持ち変えて調整する。（弓が不安定な状態の時には写真15のように紐で固定してから張り、念入りに調整してください。）

四、写真8・手下の強いときの踏み方、右手にて下銚を引き上げる。上成の強い時には写真7の様にやや左に捻る感じで下方に押す。（入木の強い弓はこの限りではない）

Caractéristiques des équipements

弓力	矢の重さ	
10kg	22g	(5匁9分)
11	23	(6匁14分)
12	24	(6匁4分)
13	25	(6匁67分)
14	26	(6匁94分)
15	27	(7匁2分)
16	28	(7匁47分)
17	29	(7匁74分)
18	30	(8匁)
19	31	(8匁27分)
20	32	(8匁54分)
21	33	(8匁8分)
22	34	(9匁)
23	35	(9匁34分)
24	36	(9匁6分)

並寸85cm、2寸伸90cm、4寸伸95cmの矢束をとった時、弓が過度な負担を受けない範囲の組み合わせであります。

各自の射技の傾向とも微妙な関連もあり、最も弦子の良い時の組み合わせを優先されるのが最良です。

これにより重い分には、弓に対する悪い支障はありませんが、軽すぎると故障誘発の大きな原因になりますので、矢飛が悪くならない範囲でなるべく重めの矢を御使い戴くことが、故障を防止する事に繋がります。

とくに遠的行射の場合は、かなり軽い組み合わせになろうかと思いますので、筈、そして反転の危険も大変高くなりますこと御承知おきください。

A gauche, puissance de l'arc, au centre poids de la flèche.